

令和6年産 大豆 フェロモントラップ調査表

事務所名／ 西脇多可

調査回	調査年月日	曜日	天候	調査 開始時間	調査 終了時間	調査 人員	調査地区名	品種名	誘殺虫数	白変箇所数	(圃場面積)	備 考 (その他記録事項)
第1回	(令和6年8月5日)	月	晴	11時00分	11時10分	1	東安田	丹波黒	211 匹	0 か所	(18.1 a)	
第2回	(令和6年8月16日)	金	晴	15時00分	15時10分	1	東安田	丹波黒	149 匹	0 か所	(18.1 a)	
第3回	(令和6年9月2日)	月	晴	15時00分	15時10分	1	東安田	丹波黒	518 匹	0 か所	(18.1 a)	
第4回	(令和6年9月9日)	月	晴	10時00分	10時10分	1	東安田	丹波黒	202 匹	0 か所	(18.1 a)	
第5回	()										()	
第6回	()										()	
第7回	()										()	
第8回	()										()	
第9回	()										()	
第10回	()										()	

調査方法

設置場所	① 大豆の栽培面積の多い地区を選定し、集団の中心あたりの圃場に設置する。 ② 外灯や民家に隣接する所での設置は避け、風通しの良い場所を選び、性フェロモン剤を取りつけたトラップを地上高さ1.5mに固定する。 ③ 調査の効率等を考慮して、圃場では道路沿いの所に設置する。
調査及び項目基準	① ハスモンヨトウの発生期間である7月から10月にかけて1～2週間ごとにトラップ内の雄成虫数を数える。 ② ①と並行して、ほ場での白変か所数(初令幼虫の集団食害による被害葉のか所数)を調査する。 ③ 性フェロモン剤は1ヶ月経過すると誘因効果が低下するので、新しい剤と交換する。 ④ 誘殺虫数からその年の発生量と発生時期の早晚を把握するとともに、調査初期の発生量からその後の発生ピークを推測して、防除の要否や防除時期の選定などの発生予察に役立てる。